

# 地質ニュース

地質調査所 特集 NO.10 1957-1

## 日本の鉄資源

鉄

は約6,000年前の先史時代に既に使用されていたが、鉄の工業利用は原始産業から近代産業への発展を促した。現在では鉄は一国の産業の根幹をなすといわれ、近代文化と密接な関係を持ち、鉄資源獲得のため、歴史上幾多の争いが繰り返されたこともある。

今後、金属元素の新しい用途が発見されても、一国の経済・文化を左右していく基礎となるものはやはり鉄であって、「鉄は産業の米」と言う言葉があるが、けだし至言である。

鉄鋼業を主体とするわが国の鉄資源の需給状況はどうなっているか、昭和30年の需給関係を右表に示してみよう。

未利用鉄資源として砂鉄・硫化鉄鉱等があるが、これ

らを利用して、昭和30年には65%程度の鉄資源が不足しており、その上鉄製品として約9万tが輸入されているので、現状としてわが国の鉄資源の需給状況はきわめて不安定である。



褐鉄鉱 (木葉化石を含む) [長野県諏訪鉱山産]

今後の開発によってわが国の鉄資源がどの程度まで増産され、海外依存をどこまで緩和することができるかは、わが国の経済・文化にとって重大な関係があるから、地質学の基礎の上に立つてわが国の鉄資源の現状を眺

め、鉄資源に関する認識を新たにしたいと思う。

昭和30年鉄資源需給状況 (単位10<sup>4</sup>t)

	国内生産量	輸入量	鉄鋼業における消費量	但し、昭和29年末在庫
普通鉄鉱石	98	545	631	140
砂鉄	57	0	69	17
硫酸焼鉱	117	0	127	14